

介護支援専門員受講試験の概況

最終更新 2010年1月1日

介護支援専門員の仕事は、介護が必要な高齢者等の生活状況を観察して、生活する上での「困った」「○○したい」という事柄（生活課題）を分析し、その生活課題を解決してくれる「社会資源」を適切に利用できるように支援することです。

ケアマネジメントサービスを提供するには、利用者を適切にアセスメントできる能力や豊富な社会資源の知識が必要です。また、高齢者に起こりやすい疾病や関連制度などの知識が求められます。その能力が試されるのが、介護支援専門員実務研修試験です。

試験にはトレンドというものがあります。ここでは、参考になりそうなトレンドについて説明しておきましょう。

1 介護支援専門員実務研修受講試験の合格状況

受験者は増加傾向にあるが、第3回から第7回まで安定して30%を保っていた合格率は、第8回は25.6%、第9回は20.5%と落ち込み、以降21~22%前後で低値安定の状態です。「2人に1人」の広き門だった状況から「5人に1人」の狭き門になっていると言えます。

【過去の試験の合格状況】

	受験者数	合格者数	合格率
第1回（1998年）	207,080	91,269	44.1%
第2回（1999年）	165,117	68,090	41.2%
第3回（2000年）	128,153	43,854	34.2%
第4回（2001年）	92,735	32,560	35.1%
第5回（2002年）	96,207	29,508	30.7%
第6回（2003年）	112,961	34,634	30.7%
第7回（2004年）	124,791	37,781	30.3%
第8回（2005年）	136,030	34,813	25.6%
第9回（2006年）	138,262	28,391	20.5%
第10回（2007年）	139,006	31,758	22.8%
第11回（2008年）	133,072	28,992	21.8%
第12回（2009年）	140,277	29,485	21.0%
合計	1,613,691	491,135	30.4%

2 介護支援専門員実務研修受講試験の内容

本試験は合計 60 問を 120 分で解く試験（5 肢複択方式）です。職種によって免除となる問題があります。例えば、介護福祉士は福祉分野 15 問は免除となり、介護支援分野 25 問と保健医療分野 15 問の計 45 問を 90 分で解答することになります。

【分野別問題数】

区分		問題数	試験時間
介護支援分野	介護保険制度の基礎知識	25 問	120 分 1 問 2 分
	要介護認定等の基礎知識		
	居宅・施設サービス計画の基礎知識等		
保健医療・福祉サービス分野	保健医療サービスの知識等（基礎）	15 問	
	保健医療サービスの知識等（総合）	5 問	
	福祉サービスの知識等	15 問	
合計		60 問	

※点字受験者は、上記時間の 1.5 倍、弱視受験者は、1.3 倍の時間になる。

3 介護支援専門員実務研修受講試験の合格基準

問題を大きく 2 つの分野に区分して、その両分野とも合格基準の得点以上であれば「合格」です。問題を 2 つの分野に区分するというのは、介護支援分野と保健医療福祉分野の 2 つに分けるということ。合格基準にはいわゆる総得点は無関係です。よく「60 問中 48 問正解でした」なんていう受験者がおられますが、まったくナンセンスです。例えば、この人が介護支援分野 13 点、保健医療・福祉分野が満点の 35 点であったとしたら、介護支援分野の基準を満たしていないため、たとえ総合得点で 80% 正解であったとしても「不合格」です。なお、今年は保健医療福祉分野は合格だったので、来年は介護支援分野だけ受ければよい、というわけにはいきません。試験のたびに両分野とも解答しなければいけません。

看護師等の場合、保健医療総合 5 問と福祉分野 15 問の合計が保健医療福祉分野の得点になりますし、介護福祉士等の場合には保健医療基礎 15 問と保健医療総合 5 問の合計が保健医療福祉分野の得点になります。したがって、「保健医療総合は 2 点で福祉分野 12 点でした。保健医療総合が 40% の得点なので不合格ですか」という質問には、「合計で 14 点ですから保健医療福祉分野の合格基準は満たしているでしょう」と答えることができます。

なお、2 つの分野にまたがって資格を有している受験者（例えば、看護師であり、かつ、介護福祉士であるという場合）では、免除分野が保健医療基礎 15 問と福祉分野 15 問となります。このような人は、介護支援分野 25 問と保健医療総合 5 問の計 30 問だけを解答すればよい（試験時間は 60 分）こととなります。この場合、保健医療福祉分野の得点は保健医療総合の 5 問中の正答数となります。通常は 5 問中 3 問以上というのが合格基準となりますが、年度により 5 問中 4 問以上の正解が必要なこともありますから、場合によっては相当厳しい戦いになるおそれがあります。

各問題は 5 肢 2 択または 5 肢 3 択のマルチプル・チョイスの形式で出題されます。例えば「正しいものを 2 つ選べ」という問題ならば、2 つの正しい選択肢を選んで初めてその問題が正解となります。1 つは正しい選択肢を選んだけれどももう 1 つは誤りであったという場合には、その問題は正解

とはなりません（0.5点とカウントされるわけではありません）。

【過去6回の合格基準】

●免除科目なしの場合

	満点	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
介護支援分野	25点	17点	16点	17点	17点	15点	15点
保健医療・福祉分野	35点	24点	22点	25点	23点	25点	20点

●医師等（保健医療分野総合・基礎免除）

	満点	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
介護支援分野	25点	17点	16点	17点	17点	15点	15点
福祉分野	15点	11点	12点	11点	9点	11点	11点

●看護師等（保健医療分野基礎免除）

	満点	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
介護支援分野	25点	17点	16点	17点	17点	15点	15点
保健医療総合・福祉分野	20点	13点	14点*	14点	12点	14点	13点

●福祉士（福祉サービス分野免除）

	満点	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
介護支援分野	25点	17点	16点	17点	17点	15点	15点
保健医療（総合+基礎）	20点	13点	11点*	15点	14点	14点	10点

*第8回保健医療分野総合に1問不適切問題があったため、採点から除外された。